

# 第12期(令和3年度)事業報告書

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

一般財団法人住環境財団

## I 現況及び概要

### 1. 事業内容

#### (1) 目的

地域社会への貢献という理念に基づき、環境活動に対する助成・支援を行うことを目的とする。

#### (2) 事業の範囲

上記の目的を達成するために以下の事業を行う。

- 1) 助成・支援に関する事業
- 2) 環境教育に関する事業
- 3) 前2号に関連する人材の育成に対する事業
- 4) 不動産の賃貸、貸与又は管理
- 5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## II 実施事業の概要

### 1. 助成・支援事業

#### 当年度に助成金を支払いした事案の実績報告

機関名	助成金額	テーマ
東京大学基金	8,000 千円	MEM・サウンド・リサーチ・リトリート・プログラム
一般社団法人 大樹自然機構	4,000 千円	パドックパラダイス計画
一般社団法人 大樹自然機構	20,000 千円	十勝地域への観光導線に有益となる「ニッポニア・MEM」 の開発
京都大学	4,500 千円	博物館収容環境整備
神戸大学	1,500 千円	高齢者施設の環境整備
山階鳥類研究 所	800 千円	賛助会員
合計	38,800 千円	

#### (1) MEM・サウンド・リサーチ・リトリート・プログラム

MEMアースラボでフィールドワーク活動「資源再読」(音を介して芽武の環境を見つめ、読み解いていく、最終的には建築の形でアウトプット)を実施してきたが、学術的研究の意義と同時に、ホテルが担う地域のハブとしての役割を拡張することの意義、外部キュレーター(学術的専門知識をもって業務の管理監督を行う専門管理職)が可能にする研究成果の社会実装を具現化することの意義が重要視され始めた。学術機関単独の活動ではなく、複合主体により活動を実践することの可能性を助長するため、また、地域の継続的な社会活動体として敷設することを目的として、リサーチリトリート、今回は音を媒体とする研究者が普段の研究の枠組みからいったん離れ心身をリセットして新鮮な視点をもつ機会を与える、その関与者にはその新鮮さが提示する「新しい

地域の読み方」を共通し、社会活動として具現化する仕組み、の通年プログラム化を行う。そしてより多様な分野の研究者が参加できる方法論探求すると同時に、地域の主体との更なる連携を図る。

#### 1) 実施概要

本研究はMEM現地に組み込みで研究の仕組みを作り込んでいく人材を確保して実施する予定だったが、コロナ禍の影響をまともに受けてしまい、人材の確保がなかなか出来ず年度内の追行が困難であったが、現在人員を確保することができ研究実施体制が整った。

#### 2) 研究メンバー

東京大学生産技術研究所  
森下有 特任講師  
ウンルハンデ  
三道ひかり

#### 3) 今後の予定

令和4年:年に4度の研究者(グループ)の参加とリトリートの実施  
成果物として社会展開可能な音源のリリース  
令和5年以降継続

#### 4) 助成金額 8,000 千円 (令和3年5月に支払い)

#### (2) 人馬共生の為のパドックパラダイス計画

大樹町にある元競走馬の育成牧場タイキトレーニングセンターの跡地で「パドックパラダイス」としての理念に基づき、馬の育て方や環境を整備することで、人と馬、両者にとっての理想的な暮らしを実現する。パドックパラダイスでは馬の自然放牧モデルを主とし、野生馬に近い環境や生活スタイルにすることで、人間に飼われた馬よりも怪我や病気が少なく健康かつ丈夫に生きることが出来ることを証明している。そこで元競争馬の育成牧場の飼育環境をパドックパラダイスの理念に基づき、馬が自然に放牧できる環境を再整備するとともに、そこに集う人間にとっても楽しく安全に馬との時間を過ごす事ができるような環境づくりを目指すことによって馬の健康状態を向上させるとともに人的コストを削減させることに加えて、施設内で人馬共生の理想形を社会に向けて発信できるようにしていきたい。

#### 1) 実施概要

本プロジェクトでは、5万6,000坪という広大な敷地面積ということから、実施するエリアを絞って実施した。帯広で造園業を営む「かわい造園」社に協力いただき、改修エリアを選定し、1,000㎡の新たな走路製作並びに牧柵修繕、草地整備を行った。改修は2021年10月に完成し、以下3つの成果を得ることができた。

成果①年間通じての馬の体調安定化

成果②害虫の減少

成果③馬による草刈り

2) 今後の予定

パドックパラダイスで、馬と来場者の本質的な触れ合いの場を提供することを各種イベントを開催しながら、提案していく

3) 助成金額 4,000 千円（令和3年5月に支払い）

(3) 十勝地域への観光導線に有益となる「ニッポニア・メム」の開発

本プロジェクトでの目的は、経済産業省「十勝アウトドア観光推進プラン」と連携し、十勝地域に「ニッポニア・メム」(ニッポニア:以前政府で進めた観光政策理念から由来)としての理念に基づき、地域に長く引き継がれてきた「ホントのコト」を事業資源に、EVやデジタルといった最新技術を活用しながら環境を整備することで、地域にペルソナや役割を深度化させ、彼らのリソースを活かした地方経営モデルを確立し地域の人々の生業、地域経営がサステナブルに続くようにする事にある。順次協力者を増やしていく。

活動の基軸は4つ①原風景の本来を創る ②地域連携での目的創り ③地域の文化財群を守る ④地域の食と生活文化を大切に活動の意義は、地域の営みを100年先に残すこと。

1) 実施概要

① 地域観光ツアー用の eBike、EV 自動車の購入とそのインフラ整備  
各種地域でのイベント等にも貸し出しの予定

② 目標とした3つの地域観光導線作成用のモニターツアー実施2回(予定3回)  
いくつかの施設にも協力いただき、実施後アンケートで実現化の手応えあり

2) 連携団体

経済産業省 北海道経済産業局

北海道 十勝総合振興局

帯広市 経済部観光交流室

大樹町、観光庁

3) 今後の予定

残り1回のモニターツアーを来年度6月に実施予定。今後、本取り組みへの協力施設を増やしていく。

4) 助成金額 20,000 千円（令和3年5月に支払い）

(4) 博物館の収蔵・展示スペースの空気温湿度環境最適化と省エネルギーに向けた研究  
関西に建つ博物館を対象として、資料の保管・展示環境の状態と空調換気設備のエ

エネルギー使用の実態を把握し、その結果に基づいて望ましい収蔵・展示環境とその制御の考え方の確立を目的とする。また地域の気象条件に適した収蔵室の壁体設計法と換気制御法を提案する。

1) 実施概要

- ① 収蔵スペース、展示スペース環境の実態調査
- ② 空調・換気システムの運転とエネルギー消費の実態調査
- ③ 収蔵スペースの最適設計、最適換気制御に関する検討

2) 研究メンバー

京都大学 銚井修一(名誉教授)  
工学研究科 小椋大輔(教授)、伊庭千恵美(准教授)

3) 助成金額 4,500 千円 (令和3年10月に支払い)

(5) 寒冷地の高齢者施設を対象とした換気が室内の空気質・温湿度・エネルギー消費量に及ぼす影響に関する研究(継続研究)

— 人由来の汚染物質の移動性上の予測方法の検討 —

高齢者施設内での空気の移動に伴い、熱、水分、におい、ウィルスなどが移動していると考えられる。これを適切に制御し、高齢者施設における空気質、温湿度を適切な状態に保ち、また、良好な室内環境を保つ為のエネルギー消費量を抑えることは重要な課題である。

これまでに、高齢者施設内の温度・湿度・二酸化炭素の分布、換気扇の運転状況を長期にわたり測定し、換気力学を用いて室内での空気移動の解析を行ってきた。さらに、これに基づき、室内環境の問題点の改善提案を行うとともに、高齢者施設の人由来の汚染物質の移動の予測を行ってきた。これまでの研究では、人由来の汚染物質の移動を計測する際、多数空間での換気計算における一室内の汚染物質濃度を一様として扱ってきたが、実際には濃度の分布は一様ではないことが想定される。

そこで、本研究では、一室における汚染物質濃度の分布を詳細に実測するとともに、数値流体解析を行い、高齢者施設を対象として行った人由来の汚染物質の移動の予測の妥当性を検討し、より精度の高い予測方法を開発することを目的とする。

1) 実施概要

- ① 大学内の居室を事例として、汚染物質濃度分布の測定
- ② 大学内の居室を事例として、空調時の気流分布特性の解析
- ③ 高齢者施設を対象とした CO<sub>2</sub> 濃度分布の数値流体解析および換気計算モデルによる予測方法の開発

2) 研究メンバー

神戸大学大学院工学研究科 高田暁(教授)

3) 助成金額 1,500 千円 (令和3年10月に支払い)

(6) 山階鳥類研究所賛助会員(継続研究)

1) 助成金額 800 千円 (令和 3 年 6 月に支払い)

当年度以前に助成金を支払いした事案の実績報告

機関名	助成金額	テーマ
横浜国立大学	4,980 千円	伝統的木造建築物を対象とした限界耐力計算手法および設計例の検討(3年計画)
国際文化会館	10,000 千円	シンポジウム助成
東京大学	30,000 千円	赤門脇トイレプロジェクト
東京大学	10,000 千円	ムムアグリプロジェクト

- (1) 伝統的木造建築物を対象とした限界耐力計算による構造計算手法及び設計例の検討  
近年、伝統構法の再評価がなされているが、このような設計法については、現状では個々の設計者の判断に任されている部分が多いことから、構造設計の考え方を整理し、正しい構造設計のための資料をとりまとめる必要がある。本研究では伝統的構法による住宅及び社寺建築物を対象とした具体的な設計例を作成する事を目標とする。既往の実験研究を調査・整理し、耐力壁や接合部などの構造要素の設計用荷重一変位関係を作成する。既往の実験研究の少ない構造要素に関しては実験を実施する。

1)実施概要

木造の伝統的構法を対象とし、限界耐力計算による設計例を作成するために、仕口、土塗り壁および垂れ壁付き独立柱のモデル化の方法を検討した。そして構造データが不足していた小根ほぞ込栓仕口、小根ほぞ鼻栓仕口、竿車知仕口、雇い車知仕口、雇い込栓仕口の実験をし、それぞれの設計用荷重一変位関係および特性値が得られた。これにより、小規模の住宅と中規模の寺院について、限界耐力計算による設計例を作成することができた。

2) 研究メンバー

横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 都市イノベーション部門  
中尾方人(特別研究教員)

3) 助成金額 4,980 千円 (平成 31 年 3 月に支払い)

- (2) 連続シンポジウム Architalk～建築・デザインが社会をどの様に変えるのか  
「建築×難民」、「建築×教育」、「都市×環境」、「デザイン×医療」など建築を異なる分野の視点から考え、社会の為にどのように生かすことができるのか考える為のシンポジウムを年2回、3年間のシリーズとして開催する。第一線で活躍する建築家や専門家

をスピーカーに招き、今後 20 年で建築・デザイン・都市を通じてどのような未来を創造できるのか、特に次代を担う若者に考えるための場を提供する。(令和 2 年 2 月に助成金 10,000 千円)

## 1) 実施概要

ニューヨークに本部を置くアジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)との共催にて、国際的に活躍する建築家やアーティスト、研究者を特別ゲストに迎えた 5 回(全 6 回)のトークセッションをウェビナー形式で配信し、建築の魅力のみならず、環境やテクノロジー、歴史、アート、コミュニティなど、さまざまな視点から建築の果たす役割や可能性について考えた。第一線で活躍する建築家や専門家をスピーカーに招くことにより、今後 20 年で建築・デザイン・都市を通してどのような未来を創造できるのか、特に次代を担う若者が考えるための場を提供。Youtube 動画にて日本語あるいは英語字幕を付与して配信した。本来は前年度開催予定だったが、コロナの影響で 1 年延期して実施。

主催:国際文化会館

共催:アジア・カルチュラル・カウンシル

協賛:清水建設、日建設計

助成:住環境財団,MRAハウス,東京倶楽部

### 第一回「変わる建築家の社会的役割

配信開始日:2022 年 2 月 17 日

スピーカー:隈 研吾(建築家)

モデレーター:宮田 裕章(慶応義塾大学教授/国際文化会館理事)

### 第二回「アート・建築・社会」

配信開始日:2022 年 2 月 24 日

スピーカー:名和 晃平(彫刻家)

モデレーター:宮田 裕章(慶応義塾大学教授)

### 第三回「建築からみる東南アジアの近代」

配信開始日:2022 年 3 月 10 日

スピーカー:ローレンス・チュア(シラキユース大学准教授)

ペン・セレイパンヤ(「Vann Molybann Project」ディレクター)

モデレーター:メアリー・ケイ・ジュディ(建築保存修復士)

### 第四回「建築・デザインを通してコミュニティを創る」

配信開始日:2022 年 3 月 17 日

スピーカー:サヴィニー・ブラナシラピン(建築家/タイ),サラ・ムイ(建築家/香港)

モデレーター:メアリー・ケイ・ジュディ(建築保存修復士)

### 第五回「建築・都市デザインにみる伝統とエコロジー」

配信開始日:2022 年 3 月 24 日

スピーカー:ジュサック・コー(建築家/韓国),アネモネ・ベック・コー(建築家/オランダ)

モデレーター:メアリー・ケイ・ジュディ(建築保存修復士)

※第六回目は 2022 年 5 月～6 月の間で開催予定

### (3)赤門脇トイレプロジェクト

大学キャンパスが兼備すべき公共性や保健性を考える契機として捉え、東京大学に所属する学生・研究員を対象にインクルーシブな社会を象徴する施設として「小さなトイレ」のデザインコンペを実施する。(令和3年1月に助成金30,000千円)

令和3年度中に建設予定だったが、赤門の耐震性に問題があったため延期となり、令和4年6月～10月頃の建設予定となった。

### (4)ムムアグリプロジェクト

北海道の帯広近郊はほとんど果樹が育たない地域として知られている。東京大学の生産技術研究所と大学院農学生命科学研究科が協同で工学と農学の知を集結し、この地域に果樹や樹木を植樹して育成に関する研究を実施する。

#### 1) 実施概要

- ① 国内で入手できるブルーベリー・サルナシ・ペカンの苗木を購入し、耐寒性を調べるためのテスト栽培を開始。
- ② 既に果樹等が栽培されているエリアにおいて生育不良が生じているため、更地に戻し土壌改良を行った上で、再度栽培を目指す。今年度に樹木等の抜根、耕起を行った。
- ③ 継続的な農業の実現を目指して10月28日～30日に土壌サンプリング調査を行うと共に、地質に合う農作物の検討候補として、実績がある北海道陸別町を視察訪問した。
- ④ 耕作放棄地の再生、土地に紐づく生態系との永続的な共生を目指して、12月25日～26日に現地調査を実施、2月の報告会で今後の方向性を議論した。

#### 2) 研究メンバー

大学院農学生命科学研究科

堤伸浩(研究学長・教授)、藤原徹(教授)、大黒俊哉(教授)、  
岩田洋佳(准教授)、本多親子(准教授)

空間情報科学研究センター:瀬崎薫(教授)

生産技術研究所

大石岳史(准教授)、巻俊宏(准教授)、沖一雄(特任教授)

#### 3) 今後の予定

令和4年5月:現地調査、前年度試験栽培用に植え付けた果樹苗の耐寒性確認

令和4年6月以降:試験栽培苗の規模拡大

耕耘とソルガムすき込みによる土壌改良実施

ランドエスケープデザインを考慮した土地的・生物的環境ポテンシャルの評価、利用可能な植物資源の探索

令和5年4月以降:果樹植栽

4) 助成金額 10,000千円 (令和3年3月に支払い)

## 2. 収益事業

ムムアースホテルへ一部不動産の賃貸を平成31年2月より実施していたが、収益の改善が見込めない状況となっているため、本業である助成・支援事業への影響を考慮し、令和4年2月をもって終了した。

今期の収益事業損益は下記のとおりです。

	項 目	金 額
収入	施設賃貸収入	2,530 千円
費用	減価償却費ほか	5,825 千円
収益事業損益		▲3,295 千円

なお、事業終了時に固定資産除却損 30,841 千円、現状復帰費用の支払い 4,653 千円、計 35,494 千円を経常外費用の固定資産除・売却損に計上している。

## Ⅲ 評議員及び役員に関する事項(令和4年3月31日現在)

### 1 評議員

役 名	氏 名	就任年月日	区 分
評議員	坂村 格	平成30年6月26日	非常勤
評議員	河野 雄介	平成30年6月26日	非常勤
評議員	眞田 容子	平成30年6月26日	非常勤

### 2 理事及び監事

役名	氏名	就任年月日	区分
理事長	高畑 久明男	令和 2年5月28日	常勤
理事	佐久間 司	令和 2年5月28日	常勤
理事	潮田 洋一郎	令和 2年5月28日	非常勤

監事	和田 芳幸	令和 1年5月17日	非常勤
----	-------	------------	-----

## IV. 理事会・評議員会の開催状況

### (1) 理事会(通常)

日時:令和3年5月6日

開催場所:書面決議

- 決議事項:第1号議案 第11期(令和2年度)事業報告の承認の求める件  
:第2号議案 第11期(令和2年度)財務諸表等の承認を求める件  
:第3号議案 令和3年6月から令和4年5月までの常勤役員の報酬の承認を求める件  
:第4号議案 定時評議員会招集の承認を求める件  
:第5号議案 基本財産の株式に関する議決権行使の承認を求める件

出席等:提案書に対し、理事全員の書面による同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。

### (2) 評議員会(定時)

日時:令和3年5月20日

開催場所:書面決議

- 決定事項:第1号議案 第11期(令和2年度)事業報告書の承認を求める件  
第2号議案 第11期(令和2年度)財務諸表等の承認を求める件  
第3号議案 令和3年6月から令和4年5月までの常勤役員の報酬の承認を求める件

出席等:提案書に対し、評議員3名全員の書面による同意の意思表示により、評議員会の決議があったとみなされた。

### (3) 理事会(通常)

日時:令和4年3月20日

開催場所:書面決議

- 決議事項:第1号議案 令和4年度事業計画の承認を求める件  
第2号議案 令和4年度正味財産増減予算の承認を求める件  
第3号議案 令和4年度資金計画及び設備投資の見込みの承認を求める件

出席等:提案書に対し、理事全員の書面により同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。